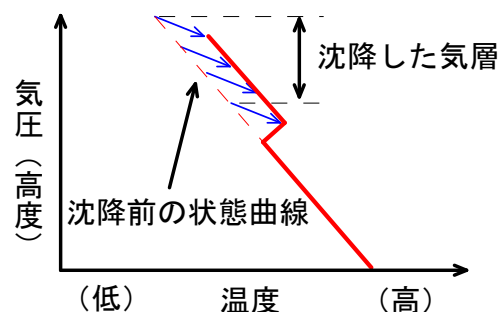


### ◎沈降性逆転層と前線性逆転層の見分け方

(9-1-10) (17-1-10) (17-2-般 6) (21-1-8) (22-1-11) (23-2-2) (R1-1-3)

沈降性逆転層と前線性逆転層は、ともに上層で見られる逆転層という共通点を持つが、状態曲線における空気の乾湿に着目することで、区別できることが多い。

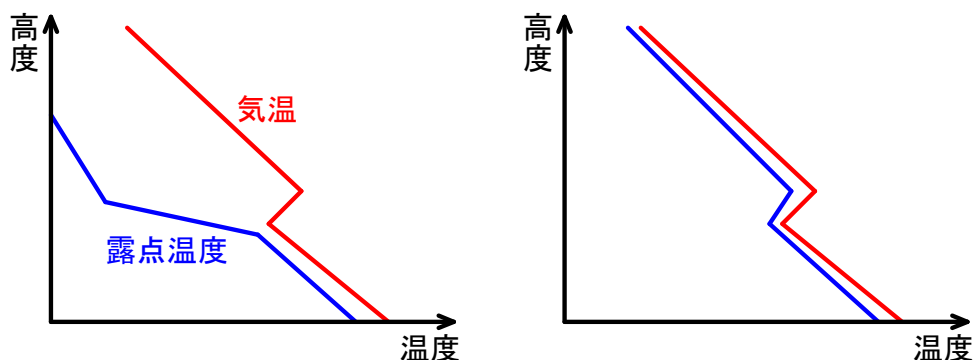
沈降性逆転層は、下降流が起こることで生じる逆転層である。通常、対流圏では上空ほど温位が高いため、上層の空気が断熱的に下降すると、下層よりも高温の気層が生じて、右図のように逆転層ができる。



沈降性逆転層は、低気圧後面や高気圧における下降流場において、よく見られる。上層から下降してくる空気は乾燥しているため、逆転層が見られる高度やその上層での湿数は大きいのが特徴である。(下図(左))

一方、前線性逆転層は、前線面に対応して現れる逆転層である。寒気の上に暖気が流れ込むことにより、相対的に上層が暖くなり、逆転層が形成されるのである。前線面では雲が生じることが多いため、一般的に前線性逆転層が見られる高度では湿数が小さいのが特徴である。(下図(右))

なお、前線性逆転層は上空に前線面が存在する場所でしか見られない。具体的には温暖前線の前面か寒冷前線の後面である。また、前ページでも述べたように、温暖前線の前面や寒冷前線の後面であっても、必ずしも逆転層が見られるわけではなく、等温層や気温減率の小さな気層として見られることもある。



▲沈降性逆転層(左)と前線性逆転層(右)の模式図

(注：逆転層より下層における空気の乾湿は状況によって異なる。)